

# えとこだより



ここにあるすべてを、

かけがえのない「宝もん」へ。

松浜・棒手振りの女衆 (昭和30年代) 提供: 松浜印刷所 寺山晃太氏

### もくじ

- 特集1 平成24年度パネル巡回展「阿賀野川と大地が織りなす光と影」 2
- 特集2 地域再発見講座(第9・10回)「人々が行き交ったあの頃の阿賀野川」 4
- 連載コラム 映画「阿賀に生きる」とその周辺の人々③ 6
- インフォメーション 8

## 下流域まで広がった地域再生と流域全体のこれから

流域の過去の光と影を知る、流域の今の強みを知る、流域の未来を考えるために。

平成19年から始動し、まずは阿賀野川の上流域からスタートした「阿賀野川えとこだプロジェクト」(FM事業)。昨年度は主に中流域を舞台に様々な事業を展開しました。さらに、前号でもお伝えしたように、昨年度半ばに立ち上げた「阿賀野川エコミュージアム構想」に多くの方々から共感いただき、上・中流域の観光や地場産業の関係者の方々と協働する機会が一堂に増えたのも特徴的でした。

今年度は、本格的な活動の舞台を下流域へと広げ、様々な地域の方々「ロバダン！」を通して交流を深めました。今号では、その結果浮かび上がったきた下流域独自の歴史や現状を題材に、パネル作品を制作し地域再発見講座などを企画しましたので、お知らせします。

このように下流域で事業展開を図ることで、上流域から下流域まで流域全体の地域事情を把握でき、流域全体の未来を考えていくための土台が完成します。その意味で流域再生はようやくスタートラインに立ったばかりと言えます。

※この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

### 講座開催

シリーズ 地域再発見講座 阿賀野川ものがたり

## 人々が行き交ったあの頃の阿賀野川

～大河と共に生きてきた松浜・横越～

第9・10回

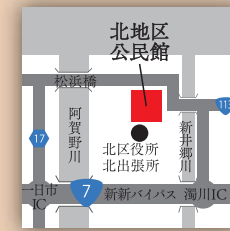


かつて大河と街道が交差する要衝として、人々が賑やかに行き交った阿賀野川下流域の松浜・横越。戦後も発展を続ける中、新潟水俣病が表面化した昭和40年代を境に、地域社会は急速に変容を遂げていく。

流域の過去と現在を知り、流域の未来を考える機会とするため、松浜会場と横越会場にて2週連続で講座を開催します。



阿賀野川河口の花火 (提供: 松浜印刷所 寺山晃太氏)



### ■松浜会場 2/17(日)

新潟市北地区公民館  
(住所: 新潟市北地区松浜1-7-1)  
TEL: 025-387-1761

途中、バスで会場を移動します。  
→ 昼食から「旅館・割烹しかい」  
(※イベント終了後、最初の会場に戻ります)



### ■横越会場 2/24(日)

老人福祉センター横雲荘  
(住所: 新潟市江南区横越中央1-1-2)  
TEL: 025-385-4321

途中、バスで会場を移動します。  
→ 昼食から「すまいる美里」  
(※イベント終了後、最初の会場に戻ります)

各会場とも昼食代(実費)1,000円/名  
開催時間は10:00～14:00  
開催内容など詳しくはP.4～5

### ●申込方法

下記必要事項をご記入の上、FAX・メール・郵送・お電話にてお申込みください。各会場とも定員は40名、先着順です。定員を超えた場合は、ご連絡いたします。

### ●申込期限

松浜会場 2/14(木)  
横越会場 2/21(木)

### ●お問合せ・お申込み先

一般社団法人あがのがわ環境学会  
〒959-2221 阿賀野市保田3866番地1  
TEL&FAX: 0250-68-5424  
E-mail: aganogawa@niigata.email.ne.jp

### 参加申込書



### 地域再発見講座(第9・10回)

※いただいた個人情報は、流域再生事業の実施を目的とした用途以外に使用することはありません。

ふりがな お名前	〒 ご住所	お電話
ご所属 (※あれば)	参加会場	※参加希望の会場名を○で囲んでください。両会場とも参加希望の場合、( )内に第一希望、第二希望の別を記入願います。 松浜会場 ( ) / 横越会場 ( )

### 「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

### 阿賀野川えとこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

### 編集後記

第8号はいかがでしたでしょうか？今年度はFM事業を開始して以来、本格的に下流域に進出した記念すべき年となりました。当初はなかなか皆さんとのつながりが見出せなかったのですが、やがて少しずつお声がけいただき、最終的には大勢の方々と「ロバダン！」を開催することができました。そうした皆さんとの交流の成果を、パネル展や講座から感じ取っていただければ幸いです。

次回、第9号は、今年度の最終号となる予定。3月末に開催予定の「阿賀野川エコミュージアム」をテーマとしたフォーラムの開催内容や今年度のロバダンの総括をレポートしますので、ご期待ください！

阿賀野川えとこだより 第8号

発行: 新潟県(※環境省補助事業) 発行日: 2013年1月30日  
企画編集: 一般社団法人あがのがわ環境学会(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424  
aganogawa@niigata.email.ne.jp

「阿賀野川えとこだ！ブログ」  
<http://www.aganogawa.info/>

リニューアルまであと一歩…。



# 平成 24 年度パネル巡回展

## 阿賀野川と大地が織りなす光と影【前編】

～大河と共に生きてきた松浜・横越～

特集  
1

### ミニパネル(\*)巡回スケジュール ※4月中旬以降のスケジュールは次号でご案内します。

展示期間	展示施設	展示時間・備考
2013/2/8 ~ 2/21	下越病院	9:00 ~ 17:00
2013/2/23 ~ 3/11	松崎湯ったり苑	10:00 ~ 24:00
2013/3/14 ~ 3/26	沢海カフェ	10:00 ~ 16:00 (毎週水曜休館)
2013/3/29 ~ 4/13	三ッ森児童館	9:00 ~ 17:00 (毎週日曜・祝日休館)

\*ミニパネルは通常パネル(A1サイズ)の半分の大きさですが、内容は全く同じです。

## パネル巡回展「阿賀野川と大地が織りなす光と影【前編】

～大河と共に生きてきた松浜・横越～

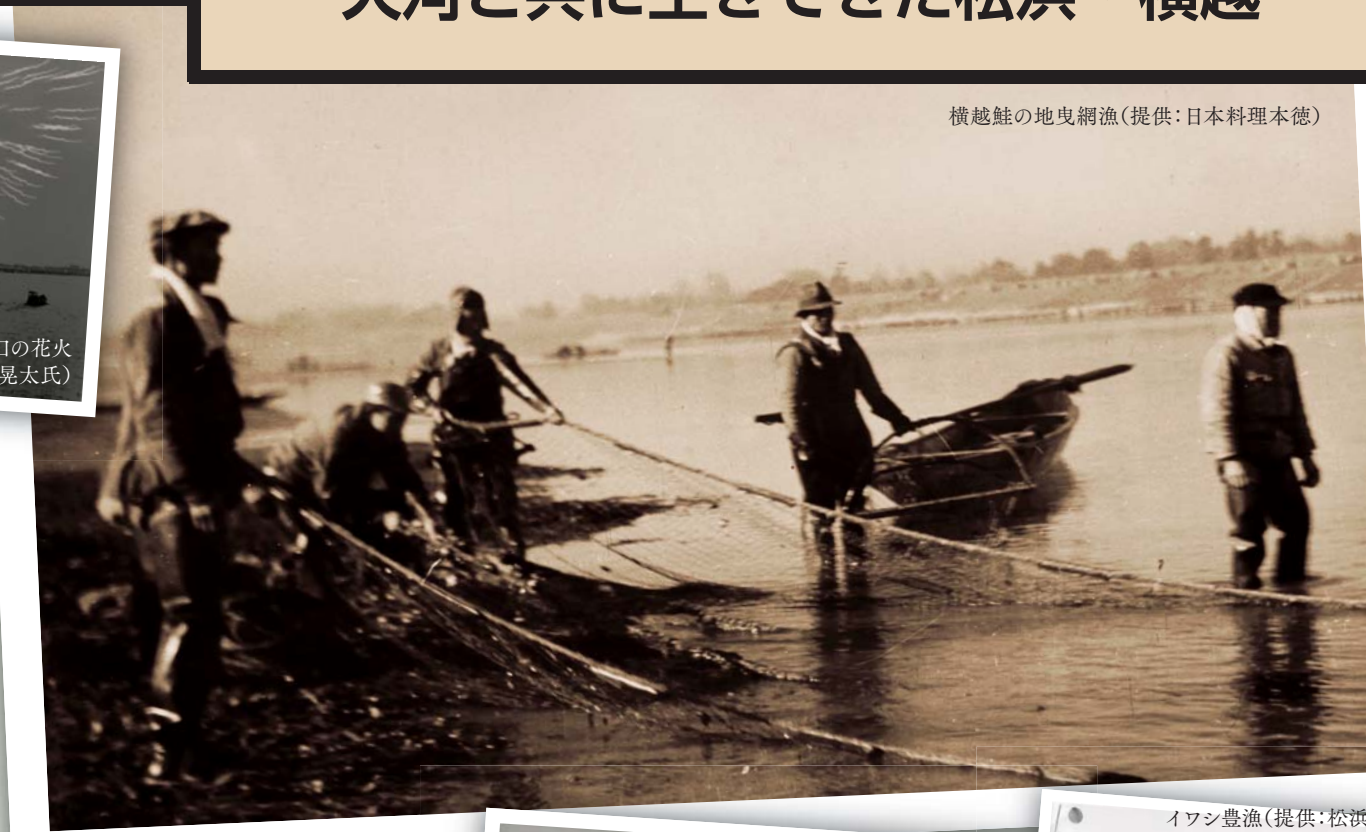
下流域施設を巡回!



かつて大河と主要街道が交差する要衝として、人々が賑やかに行き交った阿賀野川下流域の松浜・横越。越後平野の大地に多大な影響を及ぼした阿賀野川に悪戦苦闘する一方、ブランド川鮭の豊漁など様々な恩恵も享受してきました。明治以降も着実に発展してきた両地域の勢いは、木橋が永久橋に移り変わる高度成長期に頂点を迎えるもの、やがて新潟水俣病が表面化した昭和40年代を境に地域社会は急速に変容を遂げていきます。この歴史の光と影を描き出したパネル作品を6月半ばまで巡回展示しますので、どうぞご覧ください。



阿賀野川河口の花火 (提供:松浜印刷所 寺山晃太氏)



横越鮭の地曳網漁(提供:日本料理本徳)



松浜の市(提供:松浜印刷所 寺山晃太氏)



エクスカー(提供:中村善一氏)



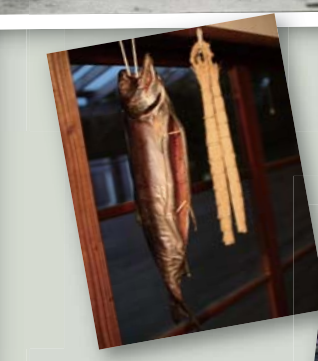
イワシ豊漁(提供:松浜印刷所 寺山晃太氏)



横雲橋(提供:中村善一氏)



大漁旗(提供:松浜印刷所 寺山晃太氏)



### 通常パネル巡回スケジュール

※4月中旬以降のスケジュールは次号でご案内します。

展示期間	展示施設	展示時間・備考
2013/2/8 ~ 2/21	新潟市北地区公民館	9:00 ~ 17:00 (祝日休館)
2013/2/23 ~ 3/10	横越老人福祉センター横雲荘	9:00 ~ 16:30 (毎週月曜・祝日休館)
2013/3/13 ~ 3/27	新潟市東区役所 南口エントランスルーム	8:30 ~ 17:30
2013/3/30 ~ 4/14	新潟市立豊栄図書館	10:00 ~ 17:00 (毎週金曜・4/3休館)

主催:新潟県 共催:新潟市  
後援:五泉市・阿賀野市・阿賀町

●企画・お問合せ先  
一般社団法人あがのがわ環境学舎  
TEL&FAX:0250-68-5424

# 人々が行き交ったあの頃の阿賀野川 ～大河と共に生きてきた松浜・横越～

## 2月に2週に渡って、松浜・横越で講座を開催します!

写真提供:小島勝治氏



浜のイワシ出しを手伝った少年(昭和29年・松浜)

松浜・横越地域の方々から提供  
いただいた貴重な写真や資料  
今年度は、下流域を中心に展開  
した「ロバダン!」を通じて、松浜・  
横越地域の方々から貴重な写真や  
資料を数多く提供していただきま  
した。  
本講座では、それらの写真や資  
料を通じて、流域の皆さんとご一  
緒に、松浜・横越地域の成り立ちや  
歴史の光と影を振り返ってみたい  
と考えています。

当日の開催  
内容はこちら

横雲橋(昭和33年)写真提供:中村善一氏

### ■松浜会場 2/17

#### 新潟市北地区公民館

(住所:新潟市北地区松浜1-7-1)  
TEL:025-387-1761

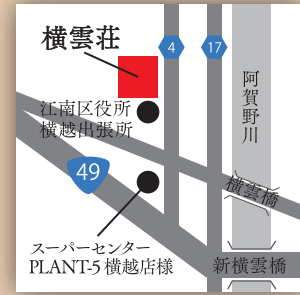
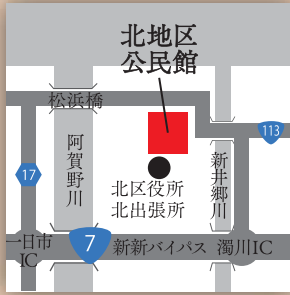
途中、バスで会場を移動します。  
→ 昼食から「旅館・割烹しかい」  
(※イベント終了後、最初の会場に戻ります)

### ■横越会場 2/24

#### 老人福祉センター横雲荘

(住所:新潟市江南区横越中央1-1-2)  
TEL:025-385-4321

途中、バスで会場を移動します。  
→ 昼食から「すまいる美里」  
(※イベント終了後、最初の会場に戻ります)

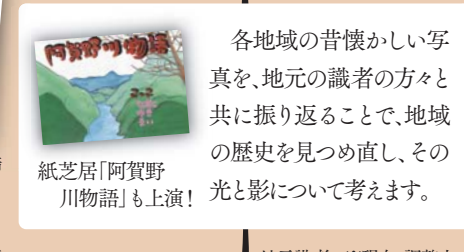


### 午前 10:00 ~ 11:30 懐かしい写真と流域の紙芝居 ~ 地域の識者と共に振り返る

写真提供:松浜印刷所 寺山晃太氏



地元識者:平田敬正氏(北地区歴史文化研究会会長) / 木村廣衛氏(松浜地区コミュニティ協議会地元学部会)



各地域の昔懐かしい写  
真を、地元の識者の方々と  
共に振り返ることで、地域  
の歴史を見つめ直し、その  
光と影について考えます。



写真提供:中村善一氏

地元識者:※現在、調整中

### 昼食 11:30 ~ 12:40 流域の郷土食が集う「豪華な粗食」~ 地元ブランド産品をメインに

**松浜「旅館・割烹しかい」**  
●ぬかイワシの湯漬  
●ヤツメウナギの味噌汁  
●泥漬 ●山菜料理など予定

地元ブランド産品をメイ  
ンに、上・中流域の稀少な  
郷土食も加わった「豪華な  
粗食」を皆で味わい、流域  
の魅力を再発見します。  
※写真は過去に提供し  
た料理の一例です。

**横越「すまいる美里」**  
●横越鮭ののっぺい汁  
●川蟹の蒸しかまどご飯  
●泥漬 ●山菜料理など予定

※当日、食材の入手が困難となり、提供する料理が急ぎょ変更になる場合がございますが、あらかじめご了承願います。「豪華な粗食」は「一社」あがのがわ環境学舎の登録商標です。  
<昼食代実費 1,000 円>

### 午後 12:40 ~ 13:40 阿賀野川の達人・交流ロバダン(炉端談議) ~ “漁師”と“船頭”の語らい



**松浜の漁**  
松浜のイワシ漁、棒手振り  
かつてイワシの豊漁で賑わった  
松浜、流域で海魚を売り歩いた  
棒手振りの女衆…公害が発生  
した時代と軌を一にして衰退した  
漁業と渡船の達人  
が語り合います。



**明治天皇に献上・横越鮭**  
かつて明治天皇に献上されるブ  
ランド鮭が獲れた横越の地曳網  
漁も昭和30年代に姿を消しました。  
昔をよく知る地元の元漁師と、鮭釣魚  
が得意だった元船  
頭が語り合います。



松浜ゲスト 木村勲氏(松浜内水面漁業協同組合長) & 立川小三郎氏(旧三川村五十島・元船頭) 里村洋子氏(「農民文学」会員) 森田克彦氏(映画温泉観光協会会長) & 横越ゲスト 市村正氏(横越鮭の地曳網漁元漁師)



下流域の川の達人たちとの「ロバダン!」の様子

主催●新潟県、阿賀野川エコミュージアム  
構想推進協議会  
共催●新潟市、新潟市北地区公民館  
後援●五泉市、阿賀野市、阿賀町  
企画●一般社団法人あがのがわ環境学舎

「ロバダン!」から紡いだ交  
流、達人たちの経験や知恵  
さらに「ロバダン!」を進め  
ていくと、かつてその地域を代  
表していた生業を営む「阿賀野  
川の達人」とも呼ぶべき方々  
と出会い、交流を深めること  
ができました。  
当日は、そうした下流域に暮  
らす川の達人に加えて、上流域  
の川の達人もお招きして、その  
経験や知恵をお聴きします。

お申込方法・お問合せ先など、詳しくはP. 8をご覧ください。

多くの方のご参加  
お待ちしております!



冬の阿賀野川(撮影:山口冬人氏)

### 映画「阿賀に生きる」 ニュープリント制作

## 連載コラム 映画「阿賀に生きる」とその周辺の人々

新潟水俣病の舞台ともなった阿賀野川流域に暮らす人々を、3年かけて記録したエンターテインメントドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」(1992年、製作:阿賀に生きる製作委員会、監督:佐藤真)。阿賀野川流域に生きる人々の中に刻み込まれた歴史や文化を、映画の登場人物など関係者の紹介を通じて発信するコラム。

### FM事業ワーキングチームメンバー:旗野 秀人

1950年生まれ。阿賀野市(旧安田町)在住。旗野住研取締役専務。映画「阿賀に生きる」の仕掛け人にして、新潟水俣病安田患者の会事務局も務め、異土のみやげ企画を主宰する。

昨年、映画「阿賀に生きる」は完成から20年を迎えた。出来上がって一緒に喜んで見えた主役のひとり、餅屋のジィちゃんこと加藤作二さんは完成の翌年の4月に逝き、連れあいのキソさんも後を追うように6月に逝った。映画の中でも夫婦ケンカのシーンなどを大サービスしてくれた二人だが、私たちの結婚式の時に金婚のお祝いを合同でやって、新婚旅行まで同行した仲である。私は映画の仕掛け人だったこともあって追悼会を呼びかけた。97年に舟大工の遠藤武さん、98年には「団結、頑張ろう!」の鈴木勇さん、そして自分の死期を予感して事前に菩提寺に挨拶に行ったり言う鹿瀬の長谷川芳男さんも99年の12月31日と続いたのである。

## 阿賀の宝もん☆発掘コラム

阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境…などを一歩深く探る各種コラムを毎月連載。

映画「阿賀に生きる」に登場した人々が体現する考え方や流域文化、報道などから伝わらない「それぞれの新潟水俣病」、「阿賀の宝もん」と地球環境問題をつなぐと見える流域の未来…など各種コラムを通して、新潟水俣病に向き合い乗り越える流域づくりのヒントを発掘していきます!

※短期集中連載コラム「阿賀の宝もん」から考える地球環境(最終回)は次号掲載します。

## 連載コラム それぞれの新潟水俣病

新潟水俣病に向き合い、それを乗り越える流域づくりを目指して始まった「阿賀野川へ〜とこだプロジェクト」。このコラムでは、これまであまり伝えられてこなかった、新潟水俣病に対する流域の人たちのさまざまな思いや動きを伝えていきます。無関心だったり中傷したりするのではなく、お互いの状況を知り、わかり合うために。

### FM事業ワーキングチームメンバー:里村 洋子

1946年生まれ。新潟市北区(旧豊栄市)在住。「農民文学」会員。

### そっと寄り添う

新潟水俣病に関する講演会や患者さんの集いの場などでいつも見かける人たちがいる。はじめは患者さんの家族だと思っていた。次は支援運動をしている共闘会議や弁護士、医師、研究者あるいは行政、マスコミ関係かなと思っただ。しかし、いずれとも違う、いわゆる「側(がわ)」の位置から見守っている人たちだ。長谷川茂子さん(68)もそんな一人である。

「側(がわ)から見守るきっかけ」長谷川さんが一市民として患者さんたちのそばにそっと立つようになったのは96年に第二次訴訟が和解成立した後からである。それまでも新潟水俣病について関心を持っていたが、「どうんと目の中に飛び込んできた」のは、勤務先からバスで帰宅途中に新潟地

### 20回を迎えた追悼集会 広がる全国のファン

気がつけば追悼会も去年で20回を数えた。毎年、5月の連休に開催するのだが、北は北海道、南は九州、沖縄まで全国から1000人ほどの「阿賀に生きる」ファンが駆けつけてくれる。年齢も職業もバラエティーに富み、生まれたばかりから90歳を越えるまで「まるで親戚の法事みたい」と、参加者が言った。

この集いが縁で結ばれたカップルもある。お互いにこの映画が大好きで、登場人物の大ファンという一点で結ばれ、その後も孫を連れた里帰りのようにリピーターとなってくれた。

### 全国のファンが寄付 ニュープリント制作

映画の舞台にもなった安田の中央公民館で午前中に感謝を込めて「阿賀に生きる」を無料で上映、午後からは講演会などをやって、夜がメインの大交流会となる。

勿論、上映は16ミリフィルムにこだわってやるのだが、さすがに痛みが激しく、20年の節目でもあり、ニュープリント制作を呼びかけたところ、全国の300名余りのファンから200万円ほどの浄財が寄せられた。なんでもがデジタル化のこの世の中で、フィルムの良さを理解

### 新潟の宝もん 再び全国から注目

してくれる人が、こんなに大勢いてくれたのである。

昨年9月には新潟市民映画館シネ・ウインドで日替わりゲストのトークを交えて、ニュープリント完成記念上映会が行われた。そして、東京の劇場でもドキュメンタリー映画では画期的な20年ぶりのリバイバル上映が実現したのである。それも好評で今年1月にはアンコール上映が決定、しかも「阿賀の記憶」と二本立てとのこと。

その後も東京以外の劇場や、自主上映の予約も次々と入っているとの吉報もあった。混迷する3・11以後、「豊かに生きる」ことの本質を問われている今、新潟の宝もん、映画「阿賀に生きる」が再び全国から注目されていることは大事に思う。



そっと寄り添う「側」のサポーターたち(阿賀野市千唐仁の「阿賀のお地藏さん」前にて)



長谷川 茂子さん

方裁判所の前を通った時だった。異様なと思うほど大勢の人垣を目にした瞬間、「あ、新潟水俣病だ、と心に響くものがあった」。

響いてきた根っこの一つには父の影響がある。父はいわゆる社会活動家であった。凛とした生き方は尊敬したが、忙しさを家で開けることが多く、娘としては反発した。そのため、市民運動からは意識して遠ざかっていた。

だが、裁判所前の光景は社会問題に目を向けることの大切さと父の顔を重ねて見せてくれた。「歳をとったせいで、父のことが少しは理解できるようになったからかもしれない」。

### 被害者の体験を知ってもらうために

以来、患者さんの話を聞き、現地調査にも参加した。「患者さんたちの長くて苦しい日々のがわかってくるとね、胸が締め付けられて」

その体験をもっと多くの人に知ってもらいたいと、新潟日報紙にも投稿してきた。最初は97年で、「水俣病資料館教訓を後世に」と題した。以来18回。題だけ少し紹介すると「環境の保護へ生活変えよう」「夏休みに新潟水俣病を知ろう」「水俣病を風化させてはならぬ」「水俣病の苦しみ正しい理解を」「水俣追悼集会歌と映画で盛り況」「読むべき労作『阿賀は訴える』」「原田正純先生の冥福祈る」「富山で公害病の歴史学ぶ」などである。

このころでは患者さんたちもすっかり打ち解けてくれて、「あんな、元気だったん」と逆に声をかけられ、その笑顔に「こちらが、じゅわ〜とうれしく」なってくるほどだ。

新潟水俣病に関心を持つきっかけや支援方法はそれぞれに違っても、長谷川さんのようにそっと寄り添う「側」のサポーターが多ければ、それもまたどんなに患者さんの力になることだろう。そんな側の輪がもっと広がっていけばと願っている。